

年 頭 の ご 挨拶

平成 30 年 1 月

一般財団法人 電気通信端末機器審査協会 (JATE)

理 事 長 木 村 順 吾

新年、明けましておめでとうございます。平成 30 年の年頭に当たり、徒然の感想とともに、ご挨拶を申し上げます。

さて、今年の干支は犬（イヌ）です。「犬」と言えば、新年初詣に参られた際、神社や寺院の入口の両脇、或いは本殿・本堂の正面左右などに鎮座する狛犬（コマイヌ）像をご覧になられていることでしょうか。一般に「狛犬」という語で通称されていますので、左右両方が「犬」とであると誤解する向きが多いようですが、よくよく見詰めてみると、実はそれぞれ異なる外見を持つ「獅子」と「狛犬」の両像が対置しています。



そもそも狛犬の起源は、古代インドで仏様の両脇に守護獣としてライオンの像を置いたのが始まりで、飛鳥時代に、中国の唐から日本に伝来した当初は、一對ともに獅子であり、左右の姿に差異はなかったそうです。ところが、日本には獅子、即ちライオンは棲息していなかったのですから、当時の日本人は、当然のこととして獅子を知りません。そこで、この珍奇な生物を犬と勘違いして、朝鮮半島（高麗）を経由して伝来してきたので、高麗（コマ）の犬、即ちコマイヌと呼ぶようになったそうです（この他にも諸説あります。）。そして、この名称が人口に膾炙されるうちに、平安時代には、実体である獅子の一方が狛犬に置換されて、獅子と狛犬が左右対置されるに至っています。この由来を振り返ると、そもそも事物や言語の伝播にはノイズ（混信、劣化）が不可避であると感じざるを得ません。

しかしながら、情報通信の分野では、本来の技術基準・技術的条件に適合しない端末機器の出現は、利用者に不安と疑念を招来し、機器製造業者、通信事業者にとっても市場流通を逼塞させかねません。

しかも、上述の転訛は、数十年、数百年単位で生じたのですが、現代では、犬が人の数倍の速度（小型犬で約 4 倍、大型犬で約 5~6 倍）で歳を取ることに着目し

て、ICT が急速に発達する現象を「ドッグ・イヤー」と呼ぶように、変化はますます加速しています。実際、ICT 分野では、固定通信網が PSTN から IP 網へと移行されていき、また、移動体通信網では LTE から 5G へ、屋内系通信機器でも Wi-Fi や Bluetooth の進化、そして通信網と端末機器とが接近する IoT、また自動車の ITS 等々、様々な新技術の投入計画が目白押しです。

JATE では、こうした新たに登場してくる技術基準・技術的条件に対応した認証サービスを、迅速かつ的確に、そして有線・無線両方を含めワンストップで提供することにより、端末機器の利用者はもとより機器製造業者、通信事業者の関係者皆様方に貢献奉仕して参りたいと考えております。

そこで、当協会としては、昭和 59 年の発足後、33 年、即ち三半世紀を経過し、その間、皆様方に支えられて培ってきた品質や信頼を活かし、より一層に利便性を高めた事業運営に努めていく所存です。本年も引き続き、皆様の多大なご支援を宜しくお願い致しますとともに、益々のご利用を心からお待ち申し上げております。